

小田ゆきのぶ が6つの施策の柱とともに、「福津市の価値」を高めるために取組みたい個別施策は！

1. 大学など高等教育機関の誘致

福津市には近隣自治体のように大学等の高等教育機関がありません。大学等が福津市に立地することにより、研究室や学生の皆さんと行政や市内団体との交流が生まれることで、市の総合的なプレーンとなることが期待できるものと考えています。また、学生の皆さんが、市内の多様な活動における協働者となって頂ければ、各種活動の幅が広がるものと期待されます。

経済的には学生の皆さんが市内店舗や事業所のアルバイト等の労働力となって頂けることも考えられ、市に活力を与えてもらえるものと思います。さらには、学生の皆さんの生活基盤のサポートを市内の方々が行うことによるプラスの経済循環を期待したいと考えています。

取組 「識者と連携し、トップセールスに取組みます。」

2. JR 福間駅から津屋崎千軒までの鉄道の敷設

西鉄宮地岳線の福津市部分が廃線となって、17年以上が経ちます。福津市内には、津屋崎駅、宮地岳駅、福間駅があり、風情がある「チンチン電車」は地域住民の貴重な交通機関でした。

現在津屋崎千軒エリアから JR 福間駅や国道3号にアクセスするのに渋滞問題が深刻な状況となっており、抜本的な解決が必要と考えられます。JR 福間駅と津屋崎千軒の2つの拠点を鉄道で結ぶことは、沿線住民の利便性と土地活用に多大な影響を及ぼし、市の都市構造や交通体系にとって大きな意義をもつものです。

また、市の観光資源は何と言っても海ですが、海沿いを電車が走るとなると大きな観光的メリットが容易にイメージできます。

ただし、このことの実現のハードルは決して低くはないと思います。32年間の行政経験で多くのプロジェクトを担当してきた私は誰よりも多く「この区間への鉄道の敷設が困難な理由」を並べることが出来る自信があります。しかし、この「困難な理由」を市民の皆さまとともに、一つひとつ解決し実現させることにチャレンジしたいと考えています。

取組 「市民・関係者・市職員等で、研究会を立ち上げます。」



さて、どっち？

